7. 15 堀之内にも寺があった

「八幡の語り草」第 118 話(97 頁)

昔は、堀之内にも寺があった。その名残りで、堀之内公会堂附近、一五二、一五四、一五六の各番地を「寺屋敷」と言っている。

さて、その寺を天王山福養寺と言った。この寺の創建は、元和元年（1615）であり、開基秀伝大和尚から、十二代祖良大和尚まで続いた。その境内は、四畝二十三歩。本堂庫裡の二棟があり、その建坪は、112 坪であった。檀家は、全部で 123 戸。寺領からの年貢米が、一斗八升五合であった。

ところが、この福養寺は、明治七年に廃寺の届が愛知県令に出された。その文面には次のように誌されている。

明治維新ノ政體ヲ奉戴堀之内一村挙而従来禪宗仏式ヲ離レテ皇国古典之神道葬祭式ニ一変スル

明治七年九月十八日

こうして廃寺になった福養寺の庫裡は、今の東海市木田町の大光庵に売却され、本尊は杉山の大祥院に安置された。本堂がどのように始末されたかはわからない。

明治十二年九月、堀之内一五三番地の共有地に、神葬祭祖霊舎が、字民 122 戸の寄附により建設された。以後、春秋の彼岸の中日には、字民がここに参集して慰霊の祭が今日もなおとり行われている。